

徳島大学・明治大学・徳島県連携事業

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

事業代表者・連絡先

吉田 和文（地域連携戦略室長、理事（地域・産官学連携担当）、副学長）
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的としている。

2. 連携事業

第8回目となる連携事業は、徳島県が主担当となり、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として、令和3年11月27日（土）にオープン講座「グリーン・トランスフォーメーション～「自然に優しい社会を考える」～」をオンラインで開催し、60名が受講した。

第1部では、明治大学総合数理学部の田村 滋教授から「どうしてグリーン・トランスフォーメーションが必要か?」、徳島大学工学部の北條 昌秀教授から、「電気エネルギーが繋ぐわたしたちの社会～電力システムと再生可能エネルギー」とそれぞれ題して講演があった。

第2部では、講演をいただいた講師に、株式会社阿波銀行営業推進部付の里 正彦部長と徳島県グリーン社会推進課の杉山 光生課長が加わり、里部長による「再エネ融資の現場から」、杉山課長による「自然エネルギー・水

素エネルギー普及拡大に向けた徳島県の取組」についての紹介を交えながら、パネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションでは、「今の暮らしを継続し、豊かな環境を次世代に残すため、社会は何に取り組むべきか」、「今の暮らしを継続し、豊かな環境を次世代に残すため、私たちは何を心がければ良いか」をテーマに意見を交わした。

近年、世界の平均気温は上昇を続け、各地で豪雨や干ばつ、生態系の変化が発生するなど、気候変動が人類を含む自然界全体にとっての脅威となるなか、太陽光や風力などの自然の力をエネルギーに変換する「自然エネルギー」に期待が寄せられている。本講座は、受講者に自然エネルギーへの理解を深めていただくとともに、徳島県での取り組み事例等をもとに、次世代へ良好な環境を引き継いでいくため、私たちに何ができるかを一緒に考える機会となった。

3. 今後の展開

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当として開催している。

このほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業やフィールドワークの開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な事業を実施しており、今後も連携を継続していく。